



↑ カッパIV型ロケットは、全長 5.6m、重量 370kg で、これまでの内では一番大型のロケットである。発射台は、運搬車を兼ねている。左に見えるやぐらはスイッチ投入台で、上下角セット後これにのぼってテレメータ、レーダトランスポンダ等のスイッチを入れる。このロケットには宇宙線計測器を載せた。



発射直後のカッパ・III型2段ロケット ⇨

## 最近の観測ロケット

1957年の観測ロケットは、研究・設計・実験・観測それに会議と追いつ、追われつ連続であった。9月、初めて宇宙線強度の観測を行った。

パイロケットは実験に先だて報道班に公開された。このロケットは、ロックン用で気球につるして2万m以上の上空から打揚げるよう設計された。発射台は、カッパのより長く、角材の上にレールを取付けた手細工である。

パイロケットはエンジンがすべてプラスチック製である。頭部も半透明のプラスチックで、中に計測器とテレメータおよび円錐形のテレメータ・アンテナが設備された。アンテナから発する電波はカッパの場合と違って横方向に出るよう設計されてある。

